

第 13 回 (1/7) 社会保障とコスト

1. 報告・相談

2. 期末成績評価について

シラバス

「平常点（受講取組みの積極性）（60 %）、期末レポート（40 %）により評価します。」

↓

【出席状況】（配点 30 %）。

* 注意：出欠についての考え方 ×出席してれば単位くる…

【授業参加の積極度】（配点 30 %）

BBS への投稿回数・内容、授業中の発言や質問、提出物の提出状況などにもとづいて、授業参加の積極度を総合的に評価します。

【期末レポート】（配点 40 %）

講義内容に関連するテーマを、各自の関心に即して自由に設定してもらいます(分量 3,000 字以上)。授業内外で吸収した知識をもとに、自らの思考を駆使して社会科学的に考え抜いた痕跡がどれだけ反映されているかの点を評価のポイントとします（たんなる感想文や、文献・Web からの引用の継ぎはぎでは低い評価となります）。

講義内容に関連するテーマを、各自の関心に即して自由に設定し、

- 論者の主張の要点をまとめる（1,000 字程度）
- それに対するあなた自身の考察・見解を述べる（2,000 字以上）

分量： 3,000 字以上 （表紙不要、学籍番号と氏名を明記、ステープルで留めること）

提出期限： 定期試験日（1/29～2/04） 教場にて提出

（定期試験時間割発表時に、日時・教場を確認のこと）

「考察・見解」の評価基準：

論証（問い、主張、根拠…）がしっかりなされているか、問題を自らの思考によって（自分のあたまを使って）、論理的に分析した痕跡がどれだけ反映されているかの点を評価基準とします。

- ※ 事後提出は認めません（やむを得ない事情により試験日当日に出席できない場合は事前に連絡を！）
- ※ レポートが提出されない場合、レポート評点は 0 点となります
- ※ 学内内規により総得点が 59 点以下の場合、成績は「不可」となります

3. BBS 投稿から

「大学に入ってやりたいことが決まっているわけでもなく、明確に就職したいとかが決まっているわけでもない状況で、周りが大学進学を目指していたから同じく進学した。だから、どの講義を受けても楽しいと思えず、学ぶ気が湧かないのだと気付いた。これから 1 つでも興味のある分野を見つけないと思う。」

「なぜワークライフバランス=適当や不真面目になるのかがわからない。またワークライフバランスを重視している若者のが、仕事できないとは限らない。仕事と私生活は分けて公私混同せず、働くときには働いて、休むときにはしっかり休むべきだと思う。仕事能力だけが社会で必要なわけではないから、ライフの方でも自分の磨きや自分への投資はできる。仕事も生活もどちらも蔑ろにせず、真剣に取り組む（向き合う）ことが理想であり、大切だと思う。」

「ワークライフバランスがある事によって仕事も捗るし生活も整って自分磨きにも繋がると思うのでワークライフバランスは大事だと思いました。ただ、集団で行動しているとそれがうまくいかない時もあると思うのでその時は自分のワークライフバランスを押し付けるのではなくお互いどのようなワークライフバランスなのか理解し合うといいのかなと思いました。」

「ワークライフバランスはやはり大切だと感じた。仕事と生活との調和をとることによって、両方を充実させることができる。仕事も精一杯やるけれど、私生活が充実することで精神を保つことができ、仕事も捗ると考えた。また、一人ひとりがやりがいを感じながら働き、仕事上の責任を果たすことで、豊かな生活ができると思った。」

「仕事の時間はしっかり仕事をして短時間の間にやるべきことをやればそれ以上に必要なことはないと思う。生活重視をする方が、より健康的な状態で仕事をするので、ワークライフバランスが重視されていた方がいい。」

「ワークライフバランスは重要視されて当然な社会を目指すべきだと思う。ワークライフバランスを重視しているから不真面目で一生懸命じゃないなんてことはないと思うし、仕事と個人の私生活でメリハリをつけることもできてとてもいいと思う。」

「生活するための仕事であり、過労死が多い日本で、ワークライフバランスを重視する社会になるべきだと思うが、人よりも違った才能や個性を積極的にアピールしないと、社会から必要とされない気がする。生活を重要視し、同じ才能を持った人達が集まったら会社的に要らないと思う。」

「私はワークライフバランスはなくてはならないものだと思うが自分自身の向上や仲間と何かを目指す上では多少崩れることは仕方がないことだと思う。私自身小学生の時からバスケットをやっていたけれど強かった時や勝った時はそれなりに辛い練習もあったし練習時間も多く取られていて大変だと感じていた。しかし、それ以上の達成感が得られたは無駄ではなかったと思うからだ。」

「私は賃金が少なくても、出世できなくとも第一に休みがほしいと思ってしまう。だが、そのような考えだろうと、自分に十分な能力がなければ切り捨てられてる社会になってきているのならば、まず若いうちはたとえ嫌だろうとワークの方を優先しなければこれから先やっていけないのだと感じた。」

「現代は今までのワークライフバランスを重視しなかった働き方の反動でワークライフバランスを重視しすぎているように感じる。今回読んだ記事の通り、グローバル化した社会で勝ち残るにはワークライフバランスを重視してはならないだろう。」

「現代はグローバル社会で世界と戦わなければならない時代だ。加えて、終身雇用制度が崩壊しつつあり、会社は入社してしまえば年功序列で面倒を見てくれた時代から実力主義の社会になってきていると考える。つまりそれは頑張って働き能力が高められた人ほど良いという意味ではないだろうか。近年ワークライフバランスの実現が重要視されている流れなのにも関わらず、その点においてなんだか矛盾している時代の流れだと感じた。ライフの方を求めるためには結局まずワークの面で頑張るしかなくなってきていると思う。」

「日本は、職務給の会社がふえているが、まだ職能給の会社が多いと感じる。もし、職務給であれば、ワークライフバランスよりワークワークのようになっているのかなと感じる。」

「若者は自分の価値を高めるべきと言うが、若者たちは自分の意思でそれを選択するのではなく、そうするように強制されているのではないだろうか。例えば、就活の際に学歴や資格・TOEICの点数など、一定の水準が存在することがある。それは企業側が良い人材を欲しているからであると思うが、若者たちはその水準を超えることを要求されるため、そうする以外の選択肢を持てなくなるのである。」

過去の投稿から

「…若者にワークバランスは必要ない、がむしゃらに働けというのは頭では理解できます。しかし、がむしゃらに働いたからといって必ず将来ワークバランスを手に入れることができるかといえそうではありません。若者もそれをわかっているからこそ若いうちからワークバランスを求めてしまうのではないかと思います。」

「…安定した職につくことはとても大切だけれど、自分から何事にも挑戦をしたり経験してそこから自分の好きな仕事をするのも悪くないと思った。」

「「休みやワークライフバランスを気にしている新卒はだめだ」という内容の記事があったが、私はこれに賛成だ。確かに昨今の問題として、過労死やブラック企業などという問題が取り上げられているが、それにばかり気をとられすぎではないだろうか。入社早々、新卒たちから私がこれを聞く立場にいたら、「仕事をする気がないのか」ととらえてしまうだろう。そもそも資本主義としてやってきた日本にこれを要求するほうが間違いなのではないだろうか。別に私は過労死やブラック企業を肯定しているわけではない。このような状況は打破すべきだと思うが、若いうちというより働けるうちに働いてある程度の信頼は勝ち取っておかなければ後が辛いのではないだろうか。」

「なんの苦勞もしないで、楽な道に進める人はいない。色々な経験の積み重ねが後になって自分の糧になると思う。人によって仕事に対しての思いはそれぞれであると思うけれど、淡々と仕事をするよりもわたしは色々な経験して自分が成長できる仕事に就きたいと思う。同じ仕事内容の繰り返しはやりがいを感じなく憂鬱になると思うからしたくない。」

「…住み心地の良い国内だけで生きる方が幸福という点に関しては、新しいことに挑戦したり、新しいことを発見すること、今までと違う感性などを引き出せることなどが好きな私にとってはせっかくより幸福になれるかもしれないチャンスを自ら踏みにじっているような気がします。…国内で生きていくことが幸福に感じる人は新しいことに挑戦したりすることが苦手な今より悪くなるかもしれないなら、良くなる可能性があったとしても現状維持がいい、リスクを負いたくない人が多いのではないのかな、と感じました。」

「わたしは仕事は面白いから休みがなくても没頭してできるものだと思います。仕事が楽しい、もっと色々なこと

をしたい、成長したい、認められたい、もっと努力をしよう。この良い連鎖が楽しい仕事、やり甲斐を感じる仕事にはあると思います。休みがあるけど、つまらない仕事なんて、そんなのつまらない人生と同じだと思ひます。せつかく学生生活頑張ってきたのだから、つまらない仕事なんかして人生終わるなんて寂しいと思ひます。」

「労働者は基本使い捨てなのは事実です。バイトや派遣などで雇われている人達がいい例だと思ひます。…バブルが崩壊して、リストラや就職難などが社会問題として取り上げられるようになってから、みんな企業から使い捨てられることを恐れて「安定していればいい」「正社員でいられればいい」という安定志向になったのだと思ひます。ですが一生安心して働ける会社はありませんし、ワークライフバランスが充実しているかは実際にそこで働いてみて自分で判断してみなければ何とも言えないと思ひます。私的にはもっと組織内で認められたい、出世したいという欲求をもった人が少なくなったと思ひます。安定した職場で安定した収入を得ることはもちろん大切です。でも自分のキャリアを積みたい、出世をしたいと思ふなら常識にとらわれず失敗を恐れない姿勢がとても大切だと思ひます。」

「企業が個人を成長させる役割を持つことは難しいと思ひます。この世の中で生き残るために経営者は必死です。それはもうしょうがないことで、本当に成長したければしがみついて勉強して自分で成長すれば良いと思ひます。それを出来る人が本当に強く勝ち組の人間になるのだと思ひます。」

「海外に比べ、日本の社会のシステムは守られすぎて、逆に成長ににくいものだと感じました。まあまあ働き具合でも解雇されることのない日本では現場に満足してしまってもっと頑張って働こうと思ひにくいと思ひます。一方で結果を出さないとすぐクビにされてしまう海外ではもっと頑張らなくちゃと思えるし、クビになってもすぐ次の仕事につきやすいので、いろんなことにチャレンジしやすいのかなと思ひます。そういった点では日本が外国企業に押され気味なのは納得できる気がしました。」

「「日本企業にはキャリアパスがない」という内容があり、なぜないのかなと疑問に思ひました。私は普通に魅力的な仕事や報酬制度もあると思ひていました。でもやはり、海外の企業と比べてみるとそれなりに違いなどがあるのかなと思ひました。そして、来年から本格的に就活が始まるので、こういう事を聞くと就活大丈夫かなと不安を持ててしまいました。」

4. 本日の資料について補足

セーフティネット

生活保護

- 生活保護の支給総額： 2001 年度 2 兆円、2009 年度 3 兆円突破、2012 年度 3 兆 7000 億円（見込）
- 扶助費の負担率：国が 4 分の 3、地方自治体が 4 分の 1
- 国や地方自治体の財政負担
- 不正受給件数（2010 年時点）2 万 5355 件、全体に占める率 1.8%、不正受給額 128 億 7425 万円、全体に占める率 0.38%

5. 論点整理

6. 検討・考察

意見交換のタスク

7. 参考文献

MSN マネー「生活保護で無料のホテルと化した病院」 (http://money.jp.msn.com/news/yucasee_column/, 2012/06/09)

MSN 産経 west 「【西論】生活保護費でパチンコ…論外。条例より弱者に NO を」

(http://sankei.jp.msn.com/west/west_affairs/news/130416/waf13041615160024-n1.htm, 2013/06/08)

8. 次回の予告

1 月 14 日 家族機能の変容

以 上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9021.teacup.com/tenomoto4/bbs>